



沼津市青少年教育センター

たより

平成26年7月号 No. 508

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300

ふるさとの誇りを

学校教育課長 鈴木 珠美



米タイム誌が主要20か国を対象に実施した「国家イメージ」に関する調査で、日本は2007年から4年連続1位であることを知っていますか。

世界56か国12万人が選んだそうです。中国人のジャーナリスト王氏は、「多くの外国人は、日本人は道徳を守り、大声でけんかしたりせず、礼儀や約束を大切にすることを評価している。東日本大震災に直面した日本人は、秩序正しく、避難所にゴミを散らかすこともなかった」とコメントしています。また、日本の国は、世界トップクラスのサービス精神も高く評価されています。「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」など、お店に入ると当たり前なあいさつは、仕事で培うものだけでなく、個々の家庭で日本人が世代を超えて培ってきたマナーだともいえるのではないのでしょうか。

道徳の学習指導要領の中で、道徳教育は学校の教育活動全体で行うことになっています。例えば、自校の子どもに「廊下歩行のきまりを守らない」現状があるとしたら、担任は、子どもの指導には「規則遵守」という道徳的価値だけでなく、他者に対する思いやりなどの「親切」、真心のこもった所作などの「礼儀」、さらには周囲への配慮などの「公德心」、安全確保などの「健康・安全」など、道徳の授業だけでなく様々な教育活動の中で道徳的価値に気づかせます。

日本の小学校・中学校の入学率がほぼ100%という高い教育水準は、基礎教育の着実な浸透とともに、道徳性の高い子どもを育てる一翼を担っていると思います。電車が定時に到着すること、驚くほど正確な宅配便や輸送、食品管理や安心して水が飲めること等、日本人のまじめさや責任感が、世界で高く評価されていることは胸を張れることです。

私たちのふるさは、「ぬまづの宝100選」にもあるように、春の香貫山香陵台の桜、夏の狩野川に映る大輪の花火、秋の黄色く色づいた西浦みかん、冬の沼津から見る富士山など、四季折々のすてきな贈り物に囲まれています。子どもたちは、そのすばらしい環境の中で、家族や地域の方に見守られながら学校に通ってきます。本市の子どもたちには、ふるさを誇りに思い、自分に自信を持ち自立してほしいと思います。そして、日々進化し続ける社会の中でもまれながらも、人とよりよく生きていこうとする道徳心を忘れず、たくましく生き抜いてほしいと願っています。

失敗という宝物



沼津市立大平中学校長 芹澤 雅之

昭和57年4月、沼津市立大岡中学校で自分の教職人生が始まりました。手のかかる子どもたちが多かった時代ですが、高校・大学時代と子どもたちと接する活動に携わっていたので、「自分ならばうまく子どもたちとやっつけていけないのではないか。」という甘い幻想を抱いていました。しかし、そんな自惚れは見事に打ち砕かれました。

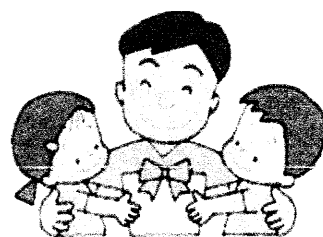
1年目は級外だったので、まだ授業中心に踏ん張れば良かったのですが、それでも新採の研修会で、他校の理科教員の仲間が「実験を教科書通りに行っていると、時間が足りない」等の悩みを話す中、それとはかけ離れた世界での毎日でした。

2年目に学級担任になると、どの子に対してもいい先生になろうという半端な格好つけの気持ちと、周りの先生たちと同じ指導をしなければという焦りから、子どもたちとの距離感というか、生徒指導上の許容範囲（どこまでを子どもに委ねるべきか、どこからは絶対譲ってはいけないのか）が定まらずに指導がふらつき、教員としての自分に自信をなくしていきました。子どもたちとどう向き合えばよいのか、どう自分の気持ちを伝えればよいのか、子どもたちの揺れる心をつかみきれずに戸惑い、子どもたちの気持ちが自分の手をすり抜けていくようで、とても苦しい毎日でした。「今年度限りで教員を辞めよう」と何度も考えました。

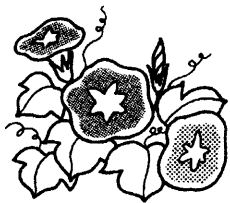
それでも辞めることができなかつたのは、僅かに残っていたプライドと教育界への未練、自分をわかってくれる何人かの子どもたちとの日々（部活動・委員会等）、励ましてくれる先輩たちの存在でした。辞められなかつた自分を、泥だらけになりながらも踏ん張れたと言って良いのか、どうかは分からないけれど……。何とか自分なりに方向性を見出すことができたのは、新採4年目の3学期でした。突然教え子を亡くすという大変悲しい出来事を境に、その子のためにも自分自身が変わらなければと覚悟を決めたときに、肝が据わったように思います。

その後、様々な人や出来事と出会い、多くの喜びや苦労を経験しました。そして今、本当に教員を辞めないで良かったと思っています。辞めるという踏ん切りがつかなかかつたからこそ、思い切りの悪い自分だったからこそ、今の自分があるのだと思います。潔い自分だったら、今頃はどんな生活をしていたのでしょうか。「格好悪さも情けなさも、長い人生の中では必要だったんだ。」今だからこそ、そんな言葉が納得できます。そして、その苦しかった時代が今の自分を支える大きな財産になっているのです。

今、様々な苦しみを抱えている子どもたちや若い先生方、子育てで苦労している親の世代に、「うまくいかない経験も大切な宝物だよ。」ということを伝えたいと思います。そして、「今を生きることが未来の自分へ確実に繋がっているのだ。」という簡単なようでなかなか実感できない真実を意識して、一步一步焦らずにゆっくりと歩いていってほしいと思います。



面接相談



- ◎ 非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など青少年に関する面接相談。
- ◎ 相談および申し込み受け付け時間：
午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
- ◎ 相談申し込み：Tel 951-3440

平成26年4月・5月・6月の状況

4・5・6月には新たに申込みがあった10件（4月3件、5月3件、6月4件）を含め、41件（延べ相談回数299回）の相談に応じました。

1. 相談内容別新規相談件数

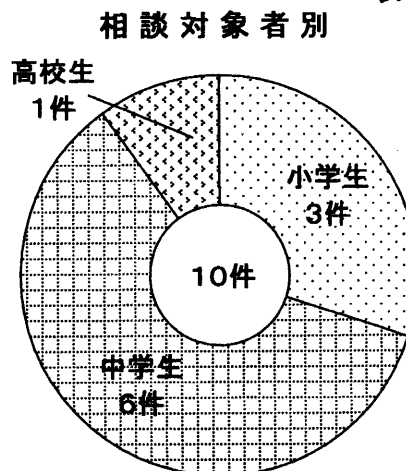
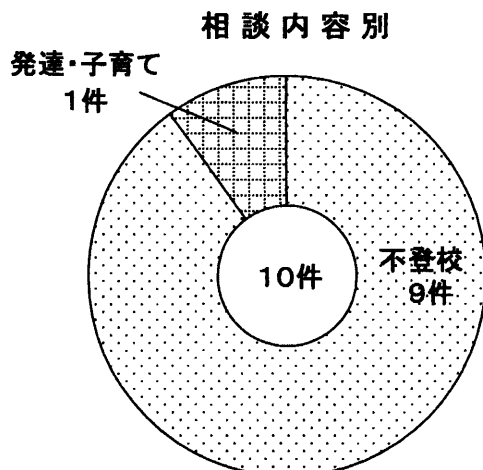
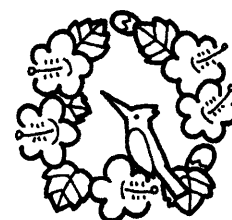
	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
4月	0	0	2	1	0	0	3
5月	0	3	0	0	0	0	3
6月	0	4	0	0	0	0	4

2. 相談対象者別

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
4月	0	2	1	0	0	0	3
5月	0	0	3	0	0	0	3
6月	0	1	2	1	0	0	4

3. 今年度の新規相談受付状況

受付件数 10件 （前年同期 20件）



4. 4・5・6月に応じた相談件数（新規相談＋継続相談）

対象	性別	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		2	2				4
	女		1	2				3
中学生	男		11	1				12
	女		12	1		1		14
高校生	男		1	1		1		3
	女		1					1
少年	男					2		2
	女				1			1
一般成人	男					1		1
	女							0
計	男	0	14	4	0	4	0	22
	女	0	14	3	1	1	0	19
男女合計		0	28	7	1	5	0	41

5. 4・5・6月の相談回数（41件の相談に要した延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
4・5・6月	男	96	18	13	127
	女	122	24	26	172
	計	218	42	39	299

相談指導学級  学級担当 

本年度の開級は4月11日（金）としました。昨年度末体験通級していた中学2年生2名が4月から学校へ登校するようになり、通級者3名で学級の生活が始まりました。しかし、更にそのうちの2名が学校へ登校するようになり、6月末現在通級者1名と体験通級者2名の計3名で生活しています。何よりも学校生活に戻れたという生徒に大きな喜びを感じています。

学級では、基本的に午前中は学習活動、午後は創作活動（火曜日のみスポーツ）という日課になっています。各々が自分でたてた計画に沿って学習しており、そこには辛さもあると思いますが、真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。各々の確かな学力の向上を期待しています。また、年間20数回の体験活動を実施しています。年度の初めは、ハイキングや農耕体験（さつまいもの苗取り・植え付け・除草作業等）など、屋外で身体を動かす活動を中心に行ないました。どの活動も、充実感・達成感等が十分味わえる活動です。さわやかな空気のもとで心も開放しながら思い切り身体を動かし、各々が何かを学び取り、これからの社会生活に活かしてくれればと願っています。

電話相談



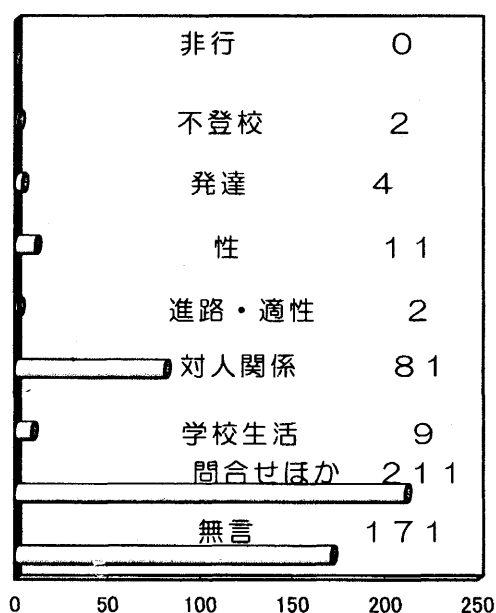
◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。
 ◎相談時間：午前10時～午後7時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

平成26年4・5・6月の状況

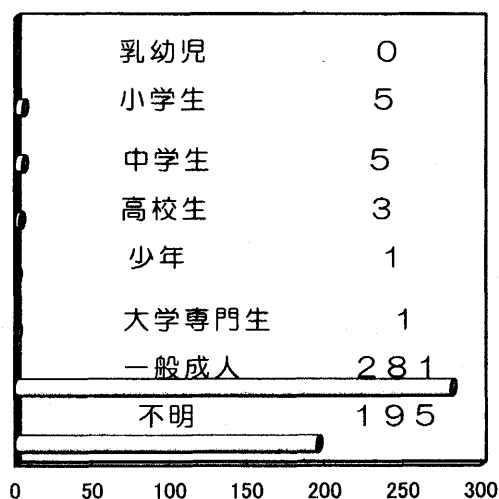
4月には195件、5月には133件、6月には163件の相談が寄せられました。（前年4月：247件、前年5月：355件、前年6月：228件）

1. 4・5・6月の相談状況

相談内容別件数

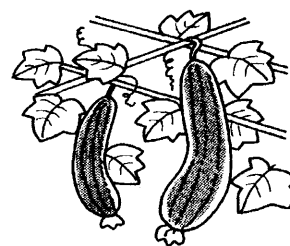


相談対象者別件数



2. 今年度の電話相談受信件数状況(平成26年度)

総件数 491件（前年同期 830件）



(1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せほか	無言
件数	0	2	4	11	2	81	9	211	171

(2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	5	5	3	1	1	281	195



『人は考える葦である』

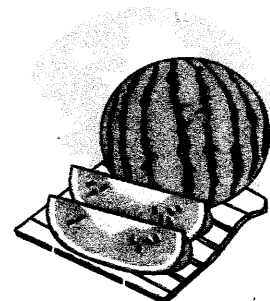
女性補導委員 飯田 康子

日々の生活の中で、つい、子どもにあれこれと言ってしまふ。

「はやく起きなさい。」「もう学校に行きなさい。」「テレビ見てないで、どんどん食べなさい。」「勉強している?」「忘れ物はない?」他にも色々。

親心で言っているつもりなのだが、毎日の繰り返りでクチグセになっている。

「手洗いは?うがいは?」「宿題あるでしょ。」「お便りあったら出してね。」
 「はやく寝なさい。」次から次へとされるのに対して、子どもは「うん。」とか「はい。」とか条件反射のように返事をして、しぶしぶ行動するか「今やろうと思ったのに!」と反発する。



また、親は行事予定表を見て、必要な物・必要になるであろう物をあらかじめ用意しておき、子どもが直前に「持って行く。」と言っても大丈夫な状態にしてあったりする。

しかし、そんな子どもが社会に出た時、指示したり言葉を掛けてくれたり、要るものを準備しておいてくれる人が、周囲にいるわけではないと気付いた時にどうだろうか。

こうしてほしい・こうなってほしいと、嫌がられながらもこちらの都合や希望でガミガミと言いつづけた末、親の手を離れ、言われなくなった時に何をしたいかわからなくなりはないか。

言われたらやる。指示してもらわなければ出来ない子が、自分で物事を考え、正しい判断をして実行できるように導くには、どうするのが良いだろうか…。

1 少年補導委員の延べ参加人数(4月~6月)

区別	市職員	教員	地区補導委員	女性補導委員	母親補導委員	警察関係	総数
人数	4月	12	7	201	4	0	224
	5月	3	5	316	6	4	334
	6月	8	13	349	12	5	388

2 補導回数・補導状況(4月~6月)

	補導回数				声かけ 注意・指導	事後指導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
4月	2	9	22	33	60	0	0
5月	3	8	31	42	92	0	0
6月	2	9	39	50	110	0	0

3 平成26年度 4月からの補導活動累計

補導回数	延べ 参加補導委員数	声かけ 注意・指導	事後指導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
125	948	262	0	0

4月・5月・6月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

今年度の補導がスタートしました。昨年度同様、よろしくお願いいたします。昨年度は、ゲームセンターへの入場が多かったですが、今年度は比較的落ち着いた状況です。ただ、このところ駅北のB i V i 周辺にたむろする少年たちの姿が目立ちます。

学 職 別 区 分		性別	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	四月からの 累計
行 為 種 別	飲 酒	男							0	
		女							0	
	喫 煙	男						2	2	2
		女			2		2		4	4
	夜 間 は い か い	男		1	4	1			6	6
		女		13	12	1			26	26
	不 良 交 友	男							0	
		女							0	
	怠 学 ・ 怠 業	男							0	
		女							0	
	ゲームセンター入場	男	9	15	38		2		64	64
		女	10	25	5				40	40
	パチンコ店入場	男							0	
		女							0	
カラオケ店入場	男							0	0	
	女							0	0	
自転車の暴走行為	男							0	0	
	女							0	0	
自転車の二人乗り	男		1	2				3	3	
	女			2				2	2	
自転車の無灯火	男			9	1			10	10	
	女			2				2	2	
危 険 な 遊 び	男							0	0	
	女							0	0	
そ の 他	男	1	4	52		1	5	63	63	
	女		8	31		1		40	40	
計	男	10	21	105	2	3	7	148	148	
	女	10	46	54	1	3	0	114	114	
男 女 合 計			20	67	159	3	6	7	262	262

事 後 指 導	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	
		女							0	
指 導	他 機 関 へ 連 絡	男							0	
		女							0	
合 計			0	0	0	0	0	0	0	0

知っていますか？ 保護者の義務

18歳未満の青少年：「携帯」「スマホ」等のフィルタリング

18歳未満の青少年が利用する携帯電話（スマートフォン）については、保護者が不要の申し出をしない限り、フィルタリングの利用が条件となっています。青少年の有害情報へのアクセスを防ぐためにも、携帯電話会社が提供するフィルタリングサービスを利用してほしいと思います。

携帯電話に限らず、機能の進化は、様々な面で利便性を高めました。しかし、同時に、弊害も生みだしました。近年、インターネットにかかわる事件や事故が多発しているのも、その1例です。「ネット依存度」も年々高まり、モラルや自己管理能力が問われる時代となりました。中高生のラインやツイッターの利用も問題視されています。ある調査からは、中高生のネットにかかわる時間の多い生徒ほど、学習時間が少ないというデータも紹介されました。こうした状況の中で、高校のPTA協議会では自主的に規制していこうと「(夜)10時以降の携帯(スマホ、パソコン)の使用禁止」を打ち出しました。高校生に限らず「携帯(スマホ、パソコン)の使用」については、一考の余地があるように思います。



センターの活動予定 (8月・9月・10月の主な活動予定)

日 程	活動(行事) 予定	日 程	活動(行事) 予定
9月12日(金)	第3回補導委員会代表者会	10月 2日(木)	畑の除草
	【体験活動はばたき】	16日(木)	新体カテスト
9月11日(木)	畑の除草	23日(木)	新体カテスト
18日(木)	福祉体験	30日(木)	オータムキャンプ (~31日)
			※天候等諸事情により、変更することがあります。

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言 (昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を、優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています。